

家蚕と天蚕 6

ロスチャイルドのヤママユ

鈴木英文

ウォルター・ロスチャイルド（1868－1937）。イギリス・ロスチャイルド家の四代目当主で女王陛下の男爵、政治家。という肩書より動物学者と言われる方が本人は喜ぶのではないかと思われるほど、家業の銀行業（N・M・ロスチャイルド&サンズ投資銀行）より動物学の研究に打ち込んだ。子供のころから蛾や蝶を収集し、ケンブリッジ大学モードリン・カレッジで動物学を学んだ後、ロスチャイルド家の所有地トリング・パークに動物学博物館を作り、多くの動物の剥製や昆虫の標本を集めた。そして銀行にいる時間より、自身の博物館で研究している時間の方が長かったと言われている。また庶民院（下院）議員のころは、議会へ行くと行ってロンドン自然史博物館に通っていたそうだ。現在彼の作った博物館はウォルター・ロスチャイルド動物学博物館としてロンドン自然史博物館（B・M・N・H）の分館であり、同博物館の鳥類学部門の研究の本拠地で、鳥類学の研究施設としては世界でも有数である。

このロスチャイルドの名が属名につけられたヤママユガ科の一群（ロスチャイルディア *Rothschildia*）がアメリカ・テキサス州から南米アルゼンチンにかけて50種ほどが生息する。

一見ヨナグニサン（沖縄から東南アジアに分布する大型のヤママユガ）に似ているが、大きさは日本のヤママユくらい大きさである。属名は1896年にオーガスタス・グロートにより命名されたが、ウォルター自身1907年にこの属の新種7種を記載している。図にはロスチャイルディア属のうちの2種を示したが、ウォルター記載の種は探したが手元になかった。またウォルターは1895年から1910年にかけてロスチャイルド属を含むヤママユガ科の新種60余種を記載している。これらはアフリカからのものが多いが、東南アジア～ニューギニア・オーストラリア、南米などにも及んでいる。

ウォルターの弟チャールズ・ロスチャイルドは兄よりも家業に熱心だったが、週末や休暇を使ってノミを研究し、また採集人を派遣し、世界中からノミを集めた。彼の研究とコレクションは、娘のミリアムに受け継がれ、分類記載され、ノミの図鑑としてまとめられた。

（今回ウォルター・ロスチャイルドの経歴等に関しては、ウィキペディア日本語版を参照した。）



図上：*R. aurota* ♂, 下：*R. hopfferi* ♂